

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会の一員として積極的に参加できるよう環境作りに努めます。個別性を尊重します。家族を支援します。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入り口に大きく貼り出しており、日々目を通し確認できるようにしています。又会議等でも、基本的な考え方について話し合っている。	○
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域への理念の浸透はあまりできていない。推進委員さんには運営推進会議の時にお話する。最近しらかば新聞を地域の回覧板で回していただいています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩など出かけた時声をかけられたりしている。 ・お年寄りの家にも遊びに出かけてもらうようにしている。(夏祭りの参加の声がけ)	○
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・出かけて行くことはむずかしく、ユニットの新聞を組長さんをお願いして回覧して様子を知っていただくようにしている。(家族了解済み)今後、代表で地域行事に参加できる様考えたい。	○
		水内荘より利用者ボランティアが毎日ある。近所のお年寄りが農作物を持ってお茶飲みに来てくれる。地域の大人だけでなく、子供の参加にも力をいれていく。(中学生朗読ボランティア11月より始まる)	小、中学校の運動会音楽会にいけるようにしていきたい。

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・災害時の手伝いについて、一時的な避難場所として使っていただけるようにしている。</p> <p>・行事にボランティアとして食の会、七夕の会等声がけし参加してもらっている。</p> <p>・実習生(介護、公衆衛生歯科衛生士)受け入れ。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果を職員全員でユニット会議で話し合い、少しでも改善できる様全職員で努力していく。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>意見を聞かせてもらい、活用している。 (何故、推進会議が必要か、包括支援センター会長より話していただいた)</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>新所長と共に出向き、困難事例は相談にのってもらっている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>専門研修等で再検収を受けた。 全職員に回覧をした。</p>	<p>○ 介護支援専門研修で受けたが回覧だけでなく伝達の機会をもうけていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ことばの虐待に気をつけて今年は職員同士声かえあっている。又、ユニット会議であったかどうか振り返りをしている。</p>	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所者の事前面接を行い最低限の説明をし、入所時は良く目を通していただき理解できた段階で印鑑をいただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情処理委員会があります。介護安心相談員の方の訪問が月一度有る。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・月一度発行のしらかば新聞、計画作成者のお知らせ版、又、健康状態の変化時お知らせする。家族の来所された時近況報告をしている。異動は行事で家族来所持紹介したり、新聞で知らせる。	○	新人職員は一言コメントを新聞に載せて紹介しているが、家族の面会が多くあり、面会時にそれぞれ紹介していつている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・インフルエンザ予防のお願いの台の上に「あなたの声」の投書箱が置いてあり自由に書いていただけるようにしてある。 ・アンケートを無記名で実施している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月の会議で互いにアイデアを出したりアドバイスしあっている。申し送りノートも利用し、見たらチェックをする事になっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・お互いに話し合って調整している。（特に行事、通院、緊急の時具合悪い時等）職員不足時は臨時パート配置できるようにしている。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者の不安を最小限にするように努めている。担当制を職員二人以上で組み異動があってもなじみの職員がいるよう工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・段階に応じた研修を行っている。法人主催の研修(腰痛予防、AEDの使い方等)研修者は会議で報告している。	○	経験年数等も考えた上で「研修マニュアル」を作成していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他施設研修を行っている。 ・他施設への見学研修も実施。長野圏域でのリーダー会(一般職員も含めて)を2ヶ月に1度夜間行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・旅行年一回、好きなコースを選び参加。 ・暑気払い忘年会を始め各グループで食事会等を計画し、ストレスをためないようにしている。 ・又、リーダー、サブリーダーより声かけをするように心がけている。	○	利用者の介護度も差があり大変な面もあるが一人で抱えこまないようお互いに気を配っていきたいと思います。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・新人研修、中堅研修、専門研修等できる限り参加してもらっています。個性を尊重し発揮できるような環境作りに、リーダーやサブリーダーが心がけるようにしている。 ・所長が故障等気さくに修理しに来てくれる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面接を行って話しを聞き、できるだけ相手を理解し知る努力をして少しでも多く不安を取り除くようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた時は話しやすい雰囲気作りをし、受身になって言いたいことを全て出せる様に。又、面会時には、職員からことばがけをする様にしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に打ち合わせをし、変化のあったときは必ず家族に報告し、出来ればGHに来ていただき、本人と共に話し合いを持ち結論(方向性)を出すように努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来るだけ今までの生活が継続できるよう事前の面接に出向き環境作りに努めている。又、入所時は面接に立ち会った職員が受け入れをするようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である事を常に忘れずに色々と教えてもらい共に行動する様にしている。(畑仕事、料理、掃除等)	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に恵まれており、面会の機会が多く良い関係が出来ていると思う。 共に喜び、悩みという雰囲気ができている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の時にはリーダー、サブリーダーがお茶を出しながら近況をお知らせしている。また要望があればお聞きする。その結果、担当者と共に話し合いを持つ。又、外泊等機会を作るようにするが受け入れはむずかしい状況。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人に来ていただいたり、年1回家族と共に墓参りに出かけ食事をしてきたり、温泉に出かける等している。(時には散歩時所長室にてお茶をいただいでくること有り)		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いにできることを進んで参加し、助け合いの大家族であることをお話しして職員による見守りを。散歩に行くとき、気の合う方同士声かけあっている。お茶の時間は職員も参加し、会話を持っている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も米寿の祝いがホームに届いた時、自宅に伺いお祝いを述べ近況をお聞きしてくる。他施設転出の方には家族に様子を伺ったり、時には担当だった職員、リーダーが面会する。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるかぎり実現できるように担当はじめとして努力。(外出、買い物、家族への手紙、TEL等)家族の面会の時、本人の希望等あった時には話し合いをもっている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等にできる限りどのような生活をされていたか機会ある毎に支障のない範囲でお聞きしている。又、本人との関わりの中でも把握している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝食時、新聞の情報やお風呂の有無等おしらせする。朝食後落ち着いた所でバイタルチェックや現状をその日勤務の職員に周知徹底し仕事についてもらう。(一人ひとりの声がけの後)	○ 普段の行動と異なる時は家族を含めて話し合いをしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員側からではなく利用者全体の生活を中心に家族の方の意見も入れて作成するようにしている。又、家族会の時には全家族の方に意見をおききしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化に対応した援助が出来るよう職員間の連絡を密にしたり、月1回の職員会議でケース検討、現状の確認を行い計画の見直しをしている。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルによる食事、排泄、バイタル等、日々のようすを記録している。仕事につく前に申し送り、記録に目を通してから入る様になっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養兼務の看護師の配置もあるが、介護度も年々高くなり、グループホームのあり方も検討する時期に来ている。(終末ケアについて)又、他の施設への転出もスムーズにできるように。	○	身体の変化にあった施設の利用できるようなシステム作りを取り組んでいきたい。(なじみの顔がある、安心して移れる)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	朗読ボラ、歌を一緒に歌う、中学生の職場体験ボラ、保育園児のやき芋ボラ等、地域の方と交流している。又、避難訓練等に地域の方の協力を得ている。笹寿司を作っていたり一緒にやしよう作りも地域の方が来て下さる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進会議でみえた時や支所に出向いた時に協力をお願いしている。家族にも支援センターの所在を知っていただく。(家族会、行事等の際にお話する。	○	推進会議のメンバーの幅を広げていく。

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>嘱託医と相談の上紹介状による専門医へのスムーズな医療の引継ぎが出来る様嘱託医との信頼関係作りをしていく。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>重度化して来ているので看護兼介護職を1人置けるような方向で検討している。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>家族との話し合い、終末の選択肢、本人の気持ち等</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>利用者の方も介護度が4、5の方が出て来ており、車イス利用者も出て来ている。それに対応できるトイレ、浴そうになっていないので、検討が必要になって来ている。</p>

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族・医療機関等情報交換している。又、入院等になった時、担当職員やリーダーが訪問し、様子をみて来る様にしている。又必要な援助もできるようにしている。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人を尊重した職員の行動を目指し、言葉がけも互いに気をつけあっている。又、月1度の会議にても気づいた点を話し合い改善するようにしている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>散歩や外出の声かけを自己決定してもらっている。地域の行事参加見学、パン販売時の購入の有無等一人ひとりの状況や思いを大切にしながら決定している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースに合わせてながら気持ちを考えて見守りをしている。食事等は見守りのグループと介助グループのテーブルについていただき、皆さんのペースに合わせた時間をとっている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>以前利用した美容院の方に来てもらっている。又理容・美容どちらにするか決めてもらいお願いをする。行事等は家族の方が化粧してくれたり担当が利用者と共に洋服を決めている。</p>	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、下ごしらえ、後片付け等職員と共にご手伝いをお願いしている。畑でできた野菜を収穫してもらったり、洗ってもらったりしらかば農園で取れた事を報告したりしている。	○	沢山の野菜作りに取組みたいがなかなかできずにいるが、毎年相談しながら色々な物に挑戦していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	風呂上りには好きな飲み物が選択出来る様になっている。毎日元気が出るからと、リポビタンを愛用している方もいる。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の習慣や、パターンを理解しており、声がけでトイレ誘導、ポータブル誘導を行っている。排泄チェック表を部屋においてチェックをしている方もいる。	○	毎日の健康チェック表欄を設け日々管理。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、水、金、が入浴日となっているが他の日に希望があれば、グループホームりんどうにて入浴可能である。AMの入浴を断られた時には、PMも他の職員が声がけするようにしている。	○	風呂が大きく深いので小さく簡単に入れる様な風呂に改修していきたい。 月、水、金、の入浴日パート職員（入浴介助）が入っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別対応なので昼寝の時間は自由に決めてあり、PM3:00のおやつ時間まではその方のペースにあわせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、花の水くれ、炊事手伝い、ゴミ箱作り、出品物作り、針仕事、着物用巾着作り、配膳手伝い等、それぞれ出来る事をお願いしている。	○	収穫しやすいような作づけの工夫。 情報の共有。

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	緊急時の訓練として主任からスタッフに抜き打ちでの連絡網実施（正確に手際良く）

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクマネジメント委員会があり、各部所の事例をもとに話し合いを持つ。家族来所時に対応を見ていただき、この様にしていますが、と意見を聞き了解を得る。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックにより記録づけし、日々の変化に気をつけ変化のあった時は受診が必要かを判断している。(事前に医師に電話し、アドバイスを受ける。)勤務職員への状況の周知徹底を図る。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の内容のシートを配薬前に確認できるところに置き、食前、食後本人に直接渡し服薬確認をしている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫(繊維質)や適度な運動を取り入れ、自然な排便を促している。下剤利用(使用)の方の排便状態には職員間の連絡を密にしている。	○ 健康チェック表を作って管理 入浴時水分補給
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ、見守り、介助を行っている。夕食後の取り外し、薬剤消毒管理、行っている。	○ 公衆衛生専門学校の実習を兼ねた指導を保っている。職員では気づけない面もわかり、歯科通院のひとつのキッカケとなっている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の日課から取れる量を一覧表としており、それによりどれくらい取れているか判断している。計画作成者が管理栄養士でもあり、力をいれている。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する委員会ができています。11月頃にインフルエンザ予防接種を利用者、職員共に受けている。外部から入って来られる方には手洗いがいい、アルコール消毒をお願いしている。	○	新聞や家族会等にも各家庭にお願いしている。月初め一斉漂白殺菌を行う。食器類の煮沸を行う。冷蔵庫等の掃除
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、フキンは毎晩消毒している。翌日の食材チェック時、冷蔵庫内の整理清潔に努めている。（日付は特に注意）冷蔵庫の温度管理、つめすぎに注意している。	○	買い物した品物には使用日を入れてから冷蔵冷凍している。賞味期限内に利用している。（時にはメニュー変更もあり）
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターで季節感がでるような花を何度か植え替えたり、配置換え等している。玄関前には、ベンチを置き立ち上がりしやすくしている。職員が笑顔で声がけし、入り易くしている。	○	畑や農作業が気になり不穏になり易い方には名前をつけてほうれん草や草花を栽培している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室に神棚、床の間、掛け軸をかけてあり障子もある。開設以来飼っている金魚や、その横には毎月季節を表すちぎり絵等毎月始めに飾りかえている。玄関、居間、台所など家庭と同様のものを設置	○	近々の写真を貼る場所（しらかば写真館）や月々発行のしらかば新聞も目の付く所に掲示している。暖かい日には玄関ベンチでお花見しながらお茶会をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長いすを置き、一人ゆったりと過ごしたり、仲良しグループの団欒の場となっている。壁には季節感を出した貼り絵や金魚は初年より飼い続けエサもくれている。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	テレビ、使い慣れたイス、タンス、時計等好きな 所に置き、又、出窓に観葉植物、季節の花等飾り 楽しまれている。リハビリ用の平行棒を置いて毎 日リハビリ歩行されている方もいる。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう 換気に努め、温度調節は、外気温と大きな 差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	ポータブルトイレ使用するには消臭剤やス プレー等使用、早めに処理し、清潔に気をつける。 清掃時の換気は窓を開けて行う。 温度、湿度管理（常温±5℃）	○	トイレの窓の開け閉めは介助に入る都度行う。観 葉植物による空気の浄化（居室、トイレ共に）
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	車イスの方の平行棒の訓練と、補助器でのリハビ リ実施。足のむくみを防ぐ為に足踏み台を置く。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	その人らしい生活ができるよう入居する前の環 境を大切に、個々のできることをやっていたい ている。 例) 足の痛い方は長いすに座って食器拭きを。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	畑を作り、職員と共に作業ができるようにして いる。又、個人名の付いた花壇もある。出窓には観 葉植物等好きなものを置いている。暖かい時期に は、車イスにて職員と花壇の水くれをしていただ いている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー・しらかばユニット

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

県木の「しらかば」の名前をいただき、玄関正面には大きなしらかばの樹が描かれており、来所された方に葉の形をした画用紙に一言づつ書いてもらい、しらかばの樹の葉を増やしています。是非一葉一葉を御覧下さい！
 玄関前でのお茶会には通りがかりの利用者、職員への参加を呼びかけ新しい話題を提供していただいている。
 いろいろな年代（保育園児、小学生、中学生、高校生、一般・・・）の方のボランティアに力を入れている。
 平成20年度は小学生4年生1クラスと年間を通じ交流があった。（4人づつグループ分けし、1人の利用者に関わりを持つ）